

NA311窯跡範囲確認調査

調査の経過 NA311号窯跡は名古屋市緑区大高町平部高根に存在する遺跡で、東海層群が侵蝕・開析された低丘陵地の緩斜面に立地する。調査は国道302号建設予定地内で実施し、NA311号窯跡が所在すると思われる地点を中心に、7本の範囲確認トレンチを設定した。窯体の残存基数と遺物包含層（物原）の範囲を確認するために、断面観察、遺構検出および包含層掘削を行い、遺構の有無や遺物の出土状況などを調査した。調査面積は100m²である。

調査の結果 北東斜面に設定したT-4およびT-5のトレンチで、窯体の一部が3基分検出された。このうち2基は天井の一部が遺存していることが確認され、窯体の残存状態は比較的良好であると考えられる。また、T-4とT-7を除く各トレンチで遺物包含層となる盛土が確認され、T-2では黒色土層（灰原）も検出された。遺物包含層は1m以上堆積している部分もあり、ここからは多くの灰釉系陶器碗・皿、焼台などが出土した。この遺物包含層は2基の窯体上部にも堆積していることから、この他にも窯体の存在が予想される。出土遺物から見て、これらは12世紀後半から13世紀前半に属する窯跡と思われる。なお、南部の東斜面では遺構、遺物を確認するには至らなかった。（鈴木正貴）



NA311号窯範囲確認調査地点（1：5,000）